



池田 良穂 (大阪経済法科大学) の新クルーズ学

32

待ちに待ったクルーズ再開。関西に本社をもつ日本クルーズ客船の「ばしふいっくびいなす」も

11月末に1泊2日のトライアルクルーズを行い、本格的なクルーズ再開のための試験航海を実施した。このクルーズに乗る機会に恵まれた。

クルーズの1週間ほど前に、まず自宅にPCR検査キットが届いた。唾液を採って郵送すると、新型コロナウイルス感染の有無がわかり、陰性であれば乗船が可能となる。届いた結果には「低リスク」と表示されていた。「陰性」とは書かれていないのは、何パーセ



11月末に始動した「ばしふいっくびいなす」

クルーズ再開、徹底した対策

者が出たときに、濃厚接触者が分かるシステムだ。船内の各公室の座席も半分になり、おしゃべりしても飛沫がかかることがないように配慮されていた。

また、最も感染リスクの高いレストランでは、基本的に同室の乗客だけ

飛沫ガードが設置されて

さて、クルーズ客船で状況。トングを要望したの新型コロナウイルス対策については、国土交通省、クルーズ業界としてのガイドラインが設けられ、さらに第3者機関である日本海事協会（NK）の認証が行われる体制が確立している。同協会は、船に関するあらゆる技術認証を行う機関で、今次の新型コロナウイルス禍にあたって、いち早く船舶におけるバイオセーフティマネジメントシステムガイドラインを作成して認証作業を始めている。

このクルーズを降りた翌日、大学時代の同窓生の小さな飲み会に出席したが、いかにクルーズ客船の対策が厳格に行われているかを実感した。飲み会は、4人十オンライン参加者で個室とのことで安心してはいたが、料理は大皿に盛られてテーブルに出され、取り箸もない

このクルーズを降りた翌日、大学時代の同窓生の小さな飲み会に出席したが、いかにクルーズ客船の対策が厳格に行われているかを実感した。飲み会は、4人十オンライン参加者で個室とのことで安心してはいたが、料理は大皿に盛られてテーブルに出され、取り箸もない